

# 手術後の再発ゼロへ

からだを  
読み解く

九大病院別府病院の研究から

読み解く

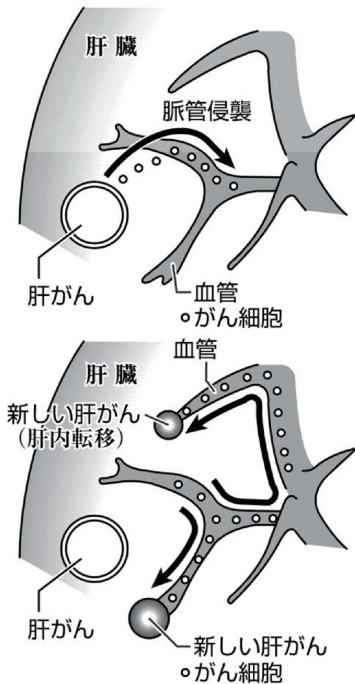
- 8 -

外科助教

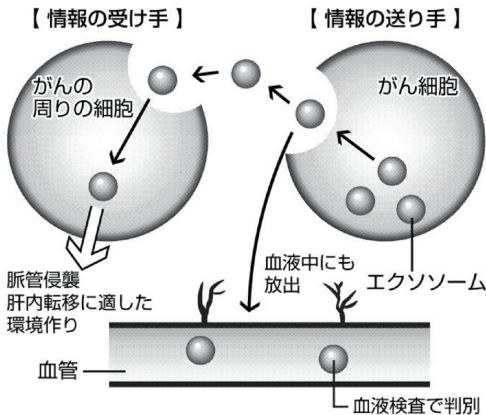
井口友宏



## 肝がん 肝内転移の仕組み



## エクソソームによる細胞同士のコミュニケーション



## がん細胞の小胞に注目

肝がんはB型やC型の肝の病変部の切除の他、抗がん剤による化学療法などにより、原因で肝炎から肝硬変となり、肝がんが発展する人が増えています。

脂質異常症、メタボリック症候群などが原因で脂肪肝となり、肝炎、肝硬変を経る人が増えています。

肝がんの治療は手術による臓の別の場所での新たながんを作る(肝内転移)ためと考えられています。しかし、現在のCT(コンピュータ断層撮影装置)など最新の画像診断機器を使っても、手術前にかん細胞が血管内に侵入しているかどうかは確認できません。

再発の主な原因は、肝臓内に張り巡らされている血管の中にかん細胞が入り込んで(脈管侵襲)、肝臓の別の場所での新たながんを作る(肝内転移)ためと考えられています。

再発の主な原因は、肝臓内に張り巡らされている血管の中にかん細胞が入り込んで(脈管侵襲)、肝臓の別の場所での新たながんを作る(肝内転移)ためと考えられています。

再発の主な原因は、肝臓内に張り巡らされている血管の中にかん細胞が入り込んで(脈管侵襲)、肝臓の別の場所での新たながんを作る(肝内転移)ためと考えられています。

肝内転移については、がん細胞が周りの細胞(微小環境)と何らかのコミュニケーション(やりとり)をすることで血管の中へ入り込めるようになり、肝内転移を引き起こすという説があります。その中でもがん細胞

エクソソームはがんの周囲だけでなく、全身の血液や尿、唾液など体液内にも存在しています。転移に関わる特有のマイクロRNAを血液検査で判別できれば、採血という体に負担の小さい検査で脈管侵襲の可能性が分かります。すでに血管の中にかん細胞がある患者には手術前に抗がん剤やピンポイントでがん細胞を狙う分子標的治療などが有効かもしれません。

九大病院別府病院は、肝がん細胞がどのようにして血管内に入り込み、転移するかを解明し、治療に応用する肝がん手術後再発ゼロを目指した臨床と研究に取り組んでいます。

九大病院別府病院は、肝がん細胞がどのようにして血管内に入り込み、転移するかを解明し、治療に応用する肝がん手術後再発ゼロを目指した臨床と研究に取り組んでいます。